

## Ⅷ. 会員管理【共益事業】

---

### (1) 役員等候補選考委員会

役員等候補選考委員会（小林喜光委員長）は、2022 年度に改選される役員の候補者を選考するため、10 月幹事会の承認をもって設置された。

役員等候補選考委員会の委員は、小林喜光 前代表幹事、櫻田謙悟 代表幹事、副代表幹事から選任する委員 2 名（以下、副代表幹事委員という）、監査役から選任する委員 1 名、幹事から選任する委員 8 名（以下、幹事委員という）の合計 13 名で構成される。

副代表幹事委員については、正副代表幹事会において協議の上、決定した。幹事委員 8 名については、7 月から 8 月にかけて立候補および推薦による公募を行ったところ、立候補は該当者がなく、推薦を受けた者が 4 名であり、定数の 8 名に満たなかったことから、選挙は実施しなかった。不足の 4 名については、役員等選任規程第 13 条に基づき、前代表幹事、現代表幹事が指名した。最終的にこの 8 名が幹事委員就任を受諾し、幹事会の承認をもって決定した。

本年度は、2022 年 4 月 27 日の会員総会において定款と規程が変更される予定であることを踏まえた上で、法定上の理事のうち、代表理事である事務局長、業務執行理事である副代表幹事ならびに常務理事、監査役、幹事、会計監査人の各候補者を選考した。

第 1 回の役員等候補選考委員会では、委員の互選により、小林前代表幹事を委員長に選任し、その後、以下の日程により改選役員等の候補者選考を行った。

#### <2021 年>

第 1 回	11 月 8 日	理事（副代表幹事）候補者の選考 新任幹事候補者の公募要領確認
第 2 回	12 月 13 日	理事（副代表幹事）候補者の選考

#### <2022 年>

臨時開催	1 月 21 日	理事（副代表幹事）候補者の選考
第 3 回	1 月 28 日	任期満了幹事の再任選考、新任幹事候補者の選考
第 4 回	2 月 18 日	理事（事務局長、常務理事）の選考 監査役候補者の選考 会計監査人の選考 任期満了幹事の再任選考、新任幹事候補者の選考

以上の選考結果について、代表理事である事務局長、業務執行理事である副代表幹事ならびに常務理事、また、監査役、会計監査人の各候補者は、役員等選任規程第 18 条に基づき、正副代表幹事会ならびに幹事会に推薦した。幹事の候補者については、役員等選任規程第 24 条に基づき、2022 年 4 月開催予定の正副代表幹事会に推薦する予定である。今後、正副代表幹事会ならびに幹事会の推薦を受けて、4 月 27 日開催予定の 2022 年度通常総会ならびに理事会において、役員等選任議案として諮る予定である。

## (2) 会員委員会

会員委員会（稲野和利委員長）は、経済同友会の志を共有し、優れた発想と時代感覚に富んだ企業経営者の入会促進を図り、本会活動の活性化と組織基盤の強化に努めている。

毎月の委員会においては、入退会審議のほか、会員拡充策および入会審査基準等についての検討を行った。なお、本年度は、経済同友会の機構改革委員会（市川晃委員長）と連携の上、会員構成や会員のあり方などに関わる議論を深め、今後の安定的な会員数の増加に向けて、本委員会において継続的な検討を行うことを確認した。また、本年度の具体的な会員拡充策として、大企業のトップマネジメントおよび若手役員、オーナー企業の経営者、女性役員を勧誘先の候補としてリストアップし、入会の拡充に努めた。

その結果、本年度の会勢は、既存参加法人の経営者 43 名、過去参加法人の経営者 13 名、新規参加法人の経営者 47 名、退会を申し出た会員の所属法人からの後任 35 名、リーダーシップ・プログラムを卒業した経営者 4 名、ジュニア・リーダーシップ・プログラムを卒業した経営者 2 名、各地経済同友会 2 名、復帰 2 名の入会を得、入会者は 148 名、退会者は 143 名、会員総数は 1,537 名となった。

なお、新入会員が本会に対する理解を深め、積極的に活動に参画することを目的に開催している「新入会員オリエンテーション」については、本年度、会合を 6 回開催し、新入会員 126 名が出席した。会合では、本会の概要ならびに事業計画に基づく直近の活動状況の説明を行うとともに、会員委員会の委員が出席し、政策委員会や懇談会における自身の活動紹介を通じて、新入会員への積極的な参加を呼びかけた。その結果、新入会員の委員会・懇談会への早期登録参加が促進され、本会活動の活性化につながった。

## (3) 若手経営者参加促進委員会——第 1 期ノミネートメンバーの「正会員」入会、第 2 期ノミネートメンバーの活動開始

若手経営者参加促進委員会（車谷暢昭委員長）は、本年度の事業計画に基づき、ノミネートメンバー制度のフォローアップとして、①第 1 期メンバー 6 名全員の正会員

への移行、②第2期メンバーの決定、③ノミネートメンバーへの活動支援、④ノミネートメンバー講演会の実施、以上4点に重点を置き活動を展開した。

まず、2020年末をもって約2年の活動期間を満了した第1期メンバー6名については、「正会員」としての入会意思を確認した上で、会員委員会における承認を経て、4月ならびに6月の幹事会に推薦した。その結果、全メンバーが正会員として正式に入会し、政策委員会や懇談会等において活発な活動を展開した。

次に、第2期ノミネートメンバーの決定については、まず、2020年度本委員会で選出した候補者に対し、本人への依頼と意思確認を行った。その結果、伊藤豊 スローガン(株)取締役社長、倉橋隆文 (株)SmartHR 取締役・COO、平野未来 (株)シナモン取締役社長 CEO、本間真彦 インキュベイトファンド(株)代表パートナー、山野智久 アソビュー(株)代表取締役 CEO の5名を決定し、6月の幹事会で報告した。それぞれ活躍が期待される得意分野の副委員長に就任し、活動を開始した。

第1期・第2期のノミネートメンバーの活動支援については、本会幹部と地方および各地経済同友会との懇談会〔九州・沖縄8県経済同友会代表幹事との意見交換会(11月24日)、関西経済同友会幹部との意見交換会(3月23日)、県知事や市長等との意見交換会〕等への参加依頼を行うなど、地方との交流促進を中心に活動支援を行った。

また、2月開催の未来選択会議オープンフォーラム、3月開催の第47回日本・ASEAN経営者会議への参加依頼も行い、一部のメンバーがリソース・パーソン(議論参加者)、あるいはモデレーターとして意見発信するなど、積極的な活動参加に繋がった。

さらに、会員に対するメンバーの紹介ならびに本制度の周知を目的に「ノミネートメンバー講演会」を開催した。2020年度に続き、第1期メンバーを講師に迎え、シリーズ第3回は、2月に出雲充(株)ユウグレナ取締役社長より「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました」、第4回は3月に佐々木紀彦 PIVOT(株)代表取締役より「メディア・ビッグバンと日本メディアの進化」と題して、それぞれ新しいビジネスモデルの創生と成長の軌跡や、自身が携わる業界の最新動向と社会課題等について講演いただき、参加者と意見交換を行った。当日の内容は、ノミネートメンバー制度の紹介と合わせて広報誌「経済同友」に掲載し、広く対外広報した。なお、2020年度に続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、当初予定していた講演会を延期したこともあり、全2回の開催にとどまった。

ノミネートメンバー制度の活用により、新入会員に占める30代、40代の割合が、制度導入前の11%から、本年度末は25%へ増加するなど、若手経営者や起業家の参加促進に一定の成果を上げ、本委員会としての役割を果たすことができた。

2018年度に始動した本委員会は、本年度末をもって活動を終了し、第2期メンバーの活動サポートは、次年度より会員委員会が継承することになった。

#### (4) 独立役員等の登録・紹介

2013年11月から運営開始した本制度は、7月下旬から候補者登録の受付を開始し、10月より企業への紹介を開始した。60名の会員・元会員が候補者として登録しており、紹介を求める当会会員所属法人は7社であった。その内の6社はマッチングには至らなかったが、1社は検討を継続中である。

また、本年度は富山経済同友会との連携を試行した。成立には至らなかったが、富山経済同友会に所属する企業2社からの紹介申し込みがあった。来年度も連携を拡充していく予定である。